

に上げられるという、決定機関が曖昧になっているから責任の所在がはっきりしなく、当然動きも遅い。(一元的でない我が国の危機管理体制が不安です)

アメリカでは、アメリカ合衆国原子力規制委員会(NRC)という組織があり、この組織の委員長が原子力に関しては全ての監督責任を大統領より委任され、取り仕切っている。

従って原発事故が起きた場合、その対策は全て委員長権限で処理しなければならない。

現委員長であるグレゴリ・ヤコブ氏は、今回の福島第一原発事故に関し、アメリカ議会公聴会で証言台に立ったが、その証言内容は、日本政府と東電の余りにも遅すぎる対応、当初、アメリカ政府から緊急援助申し出をすべて断ってしまった日本政府の危機管理意識の低さ、傲慢に見えるその態度、苛立ちに満ちた痛烈な批判的証言を行った。(CNN 中継)

それに対して我が国政府は寂として声なく、ただひたすら反省と沈黙のみ。

これからどのようなシステムを再構築しようとしているのか、発表は未だない。

Q：福島第一原発事故で放出された放射性物質は、公表されているよりも倍くらい多いんだとの噂を聞きますが、本当でしょうか？

A：真相は勿論判りません。そのような噂もあり、事実その道の専門家も証言していますから根も葉もない噂ではないのですが、しかし、われわれ一般大衆は検証の方法もなく公表された数値を信ずるしかありません。

但し、計算方法やデ・タの取り扱い方によって幅が出るのはヤムを得ないようです。

公表されてきたデ・タを改めて表示します。

### 福島第一原子力発電所の推定 (6月IAEA日本政府報告書)

福島第一 発電所	炉心損傷開始	放出量	
		I	Cs
1号炉	地震発生後約3時間	$1.9 \times 10^{-3}$	$9.1 \times 10^{-4}$
2号炉	地震発生後約80時間	$6.7 \times 10^{-2}$	$5.8 \times 10^{-2}$
3号炉	地震発生後約44時間	$3.0 \times 10^{-3}$	$2.7 \times 10^{-3}$

注：炉心内蔵量に対する割合

福島第一原発から放出した可能性のある放射エネルギー		
大気からの放出量		汚染水として 流れ出た放出量
爆発時(10日間)	常時(3/23~7/11)	
$2.32 \times 10^{18}$ Bq	$0.83 \times 10^{17}$ Bq	$7.7 \times 10^{17}$ Bq
↓	↓	↓
232万テラヘクレル	8万テラヘクレル	
240万テラヘクレル		77万テラヘクレル
総量： $3.17 \times 10^{18}$ Bq (317万テラヘクレル)		

(2011年7月11日時点)